



TITLE:

墨子ノ經濟思想(一)

AUTHOR(S):

小島, 祐馬

CITATION:

小島, 祐馬. 墨子ノ經濟思想(一). 經濟論叢 1917, 5(4): 508-518

ISSUE DATE:

1917-10-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127276>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號四第 卷五第

行發日一月十年六正大

論 說

物價變動ノ原因(一).....法學博士 河上 肇

經濟的行爲ト道德的行爲トノ關係(二).....法學博士 田島 錦治

所得稅ニ於ケル所得ノ意義(三).....法學博士 神戶 正雄

同盟罷工ト和解及仲裁制度(四).....法學士 河田 嗣郎

墨子ノ經濟思想(五).....法學士 小島 祐馬

割地ト村落制トノ關係.....法學士 牧野信之助

現代の保險ノ成立(六).....法學士 小島昌太郎

時事問題

米國ノ參戰.....法學博士 戸田 海市

物價調節ノ意義及效果.....法學士 河田 嗣郎

雜 錄

りすとノ經濟發達階段說.....法學士 本庄榮治郎

各國ニ於ケル物價騰貴ノ趨勢.....法學士 山本美越乃

戰後ノ太平洋定期航路.....法學士 小島昌太郎

朝鮮ノ關稅ニ就キテ.....法學博士 神戶 正雄

露國ノ定期刊行物ニ就テ(七).....文學士 高倉 輝

しゆもらあ教授ノ史傳ニ就テ.....文學士 長壽 吉

墨子ノ經濟思想 (一)

小島 祐馬

一 序 說

一 墨子名ハ翟、墨ハ其姓デアル。其時代ニ就イテハ人々其言ノ所ヲ異ニシ、『史記』ニハ「或ハ曰フ孔子ノ時ニ並ブト、或ハ曰フ其後ニ在リト」(孟荀列傳)ト疑ヲ存スルノ詞ヲ爲シ、『漢書』ニハ「斷ジテ孔子ノ後ニ在リ」(藝文志)ト言ヒ、又張衡ハ「子思ノ時ニ當ル」(後漢書本傳注)ト言ツテ居ル。又其生地ニ就イテモ、或ハ魯人トスルアリ(『呂氏春秋』)、或ハ宋人トスルアリ(葛洪『神仙傳』)、或ハ楚ノ魯陽ノ人ナリト言フモアリ(畢沅)、此等ノ議論ハ今日マデ未ダ決定スル所ガ無イ、然ルニ近時墨子研究ヲ以テ有名ナル孫詒讓ハ、種々ノ根據ニヨリテ墨子ガ周ノ定王ノ時ニ生レ、安王ノ末年ニ八十餘歳ノ高壽ヲ以テ死セシモノト斷定シ、又其生國ハ『呂氏春秋』ニ從ヒ孔子ト同ジク魯國ナリトスルヲ妥當ナリトシテ居ル。其說稍信ヲ措クニ足ルト思フガ故ニ今姑ク之ニ從フコトトスル。其平生ノ行事モ亦多ク佚シテ深ク考フルコトガ出來ナイ。『史記』(孟荀列傳)ニハ唯「墨翟ハ宋ノ大夫、守禦ヲ善クシ、節用ヲ爲ス」トアルノミデアル。『漢書』(藝文志)ニ『尹佚』二篇ヲ墨家ノ首位ニ置クヲ見レバ、墨子ハ史佚ノ後裔史角ガ魯ニ來リテ後、其子孫ノ魯ニ留マル者ヨリ其學ノ端緒ヲ獲タモノデアラウ。宋ニ於イテ大夫トナリシ外、其足跡ノ及ブ所ハ嘗テ北齊ニ行キ、西衛ニ使シ、

又屢楚ニ遊ンデ居ル、後越ニ適カント欲シテ是レハ果サナカッタウデアル。『文子』ニ「墨子煖席ナシ」(自然篇)ト稱シ、班固ガ「墨突黔マズ」(文選答賓賦)ト言ヘル如キハ、其驗デアル。其魯陽文君ノ鄭ヲ攻ムルヲ止メ(魯問篇)、公輸般ヲ細シテ宋ヲ存シタル(公輸篇)如キ事ハ、其書中ニ見エタル顯著ナル事蹟デアル。其學說ハ一時非常ニ流行シテ儒家ヲ壓倒スル勢ナリシヲ以テ、孟子ハ力ヲ極メテ之ヲ排撃シテ居ル。其書中ニモ「我弟子禽滑釐等三百人」(公輸篇)トアリ、「韓非子」ニモ「孔墨ノ後、儒分レテ八ト爲リ、墨離レテ二ト爲ル」(顯學篇)トアリ、以テ當時諸子中ニテ最盛ナル者ノ一ナリシコトヲ知ルニ足ル。又墨子ノ人格ハ餘程偉大ナルモノガアツタト見エ、後世秦漢ニ至ルマデ聖人ト言ヘバ孔墨ヲ併稱シテ居ル。是レ獨儒家以外ノ者ノ言フノミニ非ズシテ、儒家自身ト雖亦此言ヲ爲シテ居ルノデアル。但其學漢以後ハ全ク衰ヘテ之ヲ傳フルモノ無カリシガ。二千年ヲ隔テタル今日ニ至リ再ビ東西ノ學者ノ間ニ其研究ガ盛トナリシモ亦一奇デアル。

二 墨子ノ思想ヲ傳フルモノニハ『墨子』ノ一書ガアル。モト七十一篇(漢書藝文志)アリシガ今ハ僅ニ十五卷五十三篇ヲ餘スノミデアル。其大旨ハ下ニ述ブルガ如ク經世濟民ノ大理想ヲ述ベタルモノデアルガ、中ニハ又ソレ以外ノ種々ノ斷片ノ思想ヲ見出スコトモ出來ル。例ヘバ經篇ナドハ文字缺ゲテ殆ンド讀ムコトヲ得ズ或ハ字書ノ如クニモ見ユルガ、其中ニハ數學物理學ニ關スル事ヲ記シタル如キ所モアリ、此頃頻リニ骨ヲ折ツテ讀ンデ居ル人モアルガ、固ヨリ纏ツタ思想デナイコトハ確デアル。又備城門ナドイフ篇アリテ、攻守機械製造ノ事ナドヲ記シテアリ、此頃ノ支那ノ學者ハ其中ノ二三ノ語ニヨリテ、西洋ノ光學重學ナドハ墨子ニ本ヅクナド言ツテ誇ツテ

居ル。併シ此等ガ墨子學說ノ主要ナル部分ヲ成シテ居ルノデナイコトハ固ヨリ絮說ヲ要シナイ所デアル。尙墨子ノ多クノ篇ハ上中下ニ分レ、相互ニ文句ガ類似シテ居ル。是レハ『韓非子』ニモイヘル如ク墨子ノ學ガ後ニ三派ニ分レタル爲メ、各其學說ヲ記錄セルてきすと有セシモノガ、後此書ヲ編纂スルニ際シ故ラニ取捨セズシテ之ヲ合纂セシ爲メ、カカル體裁ヲナスニ至ツタトスルガヨイヤウデアアル。其書中ニハ確ニ墨子ノ自著ト門流ノ補續トガ雜ツテ居ルヤウデアアルガ、然ルニ其孰レガ自著ニシテ孰レガ補續ナルカニ就イテハ又議論ガアル。或ハ其中親士修身經上下篇ハ疑ラクハ墨子ノ自著ニシテ、其他ノ篇ハ墨子ヲ尊ンデ子墨子曰ヒ、甚シキハ其弟子禽滑釐マデモ子禽子曰ツテ居ルヲ見レバ、此等ハ皆其門人小子ノ記錄タルコトヲ知ルト言フモノアリ、(畢遠)、或ハ他ノ篇ハ皆墨子若クハ其門人ノ手ニ成リシモノナランモ、親士修身ノ二篇ハ誼正シクシテ文靡、正シク後人ガ時俗ニ合サントシテ儒說ヲ緣飾シテ作リタルモノトスルモノアリ(孫詒讓)要スルニ『墨子』モ他ノ先秦ノ古書ト同ジク錯簡誤脫多ク、竄易補續亦免レ難キ所ト思フ。サレド其中孰レガ眞ニ墨子ノ所說ヲ傳ヘ、孰レガ後人ノ補筆ニ成ルカハ未ダ容易ニ斷定スルコトガ出來ナイ。恐ラク是レハ將來トテモ餘程困難ノコトデアラウト思フ。尤後世ノ竄易補續トイフモ、其多クハ墨子ノ思想ヲ繼承セル其流派ノ學者ノ手ニ成リシモノタル事ハ推察ニ難カラザル所デアアル。サレバ今茲ニ墨子ノ經濟思想トシテ紹介スル所ハ、全ク『墨子』ノ思想ニシテ必シモ墨翟其人ノ思想ニ限定スルワケデハナク、正確ニ言ヘバ『墨子』ニ見ハレタル經濟思想ト爲スベキデアアルガ説述ノ便宜上姑ク『墨子』ヲ以テスベテ墨子ノ思想ヲ代表スルモノト看做シテ置クノデアアル。尙コ

コニ經濟思想ト云フハ狹義ノ經濟ノ義ニ非ズシテ、最廣義ニ於イテ用ヒタルモノナルコトヲ豫メ斷ツテ置カネバナラス。

附言 墨子學派ノ著述トシテハ、『墨子』以外一モ今日ニ傳ハルモノハ無イ。柳宗元ハ『墨子春秋』ヲ以テ墨家者流ガ墨子ニ托シテ其道ヲ述ベタルモノナリト爲シテ居ルガ、古來之ハ儒家ノ中ニ列スルモノアリ、或ハ傳記ノ中ニ編入スルモノアリ、墨家ト斷定スルハ稍早計ニ失スルヤニ思ハルル節ガアル。其他『孔叢子』ヤ『說苑』ナドニ『墨子』ノ佚文ト思ハルモノ散見スルモ、『墨子』ノ所論ニ特ニ何物ヲモ附ケ加ヘル程ノモノハナイヤリデアル。サレバ今『墨子』ニ見ハレタル經濟思想ヲ說述スレバ、同時ニ今日ニ傳ハル墨家者流ノ經濟思想ハスベテ說キ盡シ得ルコトナルヲケデアル。

二 兼愛ノ社會

一 墨子學說ノ中心思想ト目スベキモノハ「天下ノ利ヲ興シ天下ノ害ヲ除ク」ト云フ一語ニ在ル。是レハ其書中到ル處ニ之ヲ反覆セル所ニシテ、是レ即チ聖人仁人ノ當ニ務ムベキ第一ノ事業デアルト爲シテ居ル。然ラバ謂フ所ノ天下ノ利トハ何デアルカ、又天下ノ害トハ何デアルカ。墨子ニ從ヘバ天下ノ利トハ即チ兼愛デアツテ、天下ノ害トハ即チ別愛デアル。曰ハク「仁人ノ事ハ必ズ天下ノ利ヲ興シ、天下ノ害ヲ除カンコトヲ求ムルモノデアル。今吾兼愛ノ生ズル所ヲ原ヌルニ、コレ天下ノ大利ヲ生ズル者デアル。吾別愛ノ生ズル所ヲ原ヌルニ、コレ天下ノ大害ヲ生ズル者デアル」(註一)ト。然ラバ所謂兼愛トハ何デアルカ、曰ハク人ヲ愛シ人ヲ利スルコトデアル。所謂別愛トハ何デアルカ、曰ハク自ラ愛シ自ラ利スルコトデアル。是レガ即チ墨子ノ學說ノ出發點デアル。

墨子ハ先ヅ天下ノ大害ナルモノヲ述ベテ次ノ如ク言ツテ居ル。曰ハク「今ノ時ニ當リ天下ノ害孰レヲ大ナリト爲スカ、曰ハク、大國ノ小國ヲ攻メ、大家ノ小家ヲ亂シ、強者ノ弱者ヲ劫シ、多數ノ少數ヲ暴シ、誦詐ノ愚直ヲ謀リ、富貴ノ貧賤ニ敖ルガ如キ、是レ天下ノ害デアル。又人君タル者ノ不惠ヤ、臣タル者ノ不忠ヤ、父タル者ノ不慈ヤ、子タル者ノ不孝ヤ、此又天下ノ害デアル。又今ノ賤人兵刃毒藥水火ヲ執リテ互ニ相腐賊スル若キ、此又天下ノ害デアル」(註二ト)。之ヲ要スルニ上下交々擠排紛爭ヲ是レ事トシ、強大富貴ノ者ノ弱小貧賤ノ者ヲ壓倒スル自由競爭ノ社會狀態ヲ目シテ是レ天下ノ大害ナリト爲スノデアル。而シテ墨子ハ更ニ其大害ノ由テ來ル所ノ原因ヲ究メテ、是レ人間ノ自利自愛ノ念ヨリ發スルモノトシテ居ル。即チ君臣父子兄弟ノ間、上下各亂倫ノ行アルハ、君臣父子兄弟各自ヲ利シ自ラ愛シテ、他ヲ利シ他ヲ愛スルノ念ナキガ爲メニ起ル。天下ノ盜賊ヲ爲ス者モ亦同様ニテ、彼等ハ自室ヲ愛シテ異室ヲ愛セズ、其身ヲ愛シテ人ノ身ヲ愛セザルガ故ニ、異室ニ竊ミテ其室ヲ利シ、人ノ身ヲ賊ヒテ其身ヲ利スルノデアル。諸大夫ノ互ニ他家ヲ亂シ、諸侯ノ互ニ他國ヲ攻ムル、一トシテ自利自愛ノ念ニ本ヅカザルモノハナイ(註三)。畢竟此自利自愛ノ念、換言スレバ別愛ノ觀念ガ、即チ天下ノ大害ヲ醸ス根本原因ヲ爲ストスルノデアル。果シテ然ラバ此大害ヲ除キ天下ノ大利ヲ興ス所以ノ道如何。是レ即チ利他愛他ノ兼愛主義ヲ以テ別愛ノ觀念ニ代ラシムルノ外ナシトスルノデアル。曰ハク「既ニ自ラ愛シ相愛セザルヲ以テ不可ト爲サバ、何ヲ以テ之ニ易ヘ行ノベキカ。曰ハク、兼ネ相愛シ交モ相利スルノ法ヲ以テ之ニ易ヘン。然ラバ則チ兼チ相愛シ交々相利スルノ法將ニ奈何セントスルヤ。曰ハク、凡ソ兼愛ノ要ハ、

人ノ國ヲ視ルコト己ノ國ヲ視ルガ若クシ、人ノ家ヲ視ルコト己ノ家ヲ視ルガ若クシ、人ノ身ヲ見ルコト己ノ身ヲ視ルガ若クスルニ在リ、是故ニ諸侯相愛スレバ野戰セズ、家主相愛スレバ相纂ハズ、人ト人ト相愛スレバ相賊ハズ、君臣相愛スレバ惠忠アリ、父子相愛スレバ慈孝アリ、兄弟相愛スレバ和調ス、天下ノ人皆相愛スレバ、強者ハ弱者ヲ執ヘズ、多數ハ少數ヲ劫サズ、富者ハ貧者ヲ侮ラズ、貴者ハ賤者ニ敖ラズ、譎詐ハ愚直ヲ欺カザル社會狀態ヲ現出スル」(註四)。若シ果シテ斯ノ如キ社會ヲ作り出スコトヲ得ンカ、アラユル禍穢怨恨跡ヲ天下ニ絶ツニ至ルベク、眞ニ聖王ノ治ニシテ萬民ノ大利デアルトスルノデアル。要スルニ墨子ノ理想ハ自利心ヲ是認スル自由競争ノ社會ヲ破却シ去ツテ、利他心ヲ基礎トスル人類同愛ノ新社會ヲ現出セント欲スルモノデアル。

(註一) 仁人之事者、必務求與天下之利、除天下之害、今吾本原兼之所生、天下之大利者也、吾本原則之所生天下之大害者也、(兼愛篇下)

(註二) 當今之時、天下之害孰爲大、曰若大國之攻小國也、大家之亂小家也、強之劫弱、衆之暴寡、詐之謀僞、貴之敖賤、此天下之害也、又與爲人君者之不惠也、臣者之不忠也、父者之不慈也、子者之不孝也、此又天下之害也、又與今之賤人、執其兵刃毒藥水火、交相廝賊、此又天下之害也、(兼愛篇下)

(註三) 當察亂何自起、起不相愛、臣子之不孝君父、所謂亂也、子自愛不愛父、故虧父而自利、弟自愛不愛兄、故虧兄而自利、臣自愛不愛君、故虧君而自利云々、(此文冗長ナレバ只自利自愛ノ字ヲ示スニ止ム、詳シクハ兼愛篇上ヲ見ヨ)

(註四) 既以非之、何以易之、子墨子言曰、以兼相愛交相利之法易之、然則兼相愛交相利之法、將奈何哉、子墨子言、視人之國、若視其國、視人之家、若視其家、視人之身、若視其身、是故諸侯相愛則不野戰、家主相愛則不相纂、人與人相愛則不相賊、君臣相愛則惠忠、父子相愛則慈孝、兄弟相愛則和調、天下之人皆相愛、強不執弱、衆不劫寡、富不侮貧、貴不敖賤、詐不欺愚、(兼愛篇中)

一一 世人或ハ疑フ、兼愛ノ社會タルヤ理想トシテハ至極結構デアル、然ルニ此ノ如キハ今日ノ世ニ於イテ到底實行シ得ベカラザル事業ニシテ、要スルニ迂濶ナル空論ニ過ギナイデハナイカト、墨子ハ之ニ答ヘテ「是レ世人ガ兼愛ノ利ヲ知ラズ、又其事ヲ辨ヘザルノ致ス所デアル」ト言ヒ、且實行ノ可能ト兼愛ノ利益トヲ次ノ如ク述ベテ居ル。「今夫ノ攻城野戰、身ヲ殺シ名ヲ爲スガ若キハ、此レ天下百姓ノ皆難事トスル所デハナイカ。ソレデモ苟モ君主此難事ヲ悦ババ、士衆能ク一身ヲ捨テテ之ヲ爲スノデアル。況ンヤ兼ネテ相愛シ交モ相利スルコトハソレトハ様子ガ違フ。夫レ人ヲ愛スル者ハ人モ必ズ從ウテ之ヲ愛シ、人ヲ利スル者ハ人モ必ズ從ウテ之ヲリス。人ヲ惡ム者ハ人必ズ從ウテ之ヲ惡ミ、人ヲ害スル者ハ人必ズ從ウテ之ヲ害スルノデアル。サレバ兼愛ヲナス何ノ難キ事カアラン。其行ハレザルハ特ダ上ニ在ル者兼愛ヲ以テ政ヲ爲サズ、士タル者兼愛ヲ以テ行ヲ爲サザルガ故デアル」(註二)ト。而シテ墨子ハ古ノ禹湯文武ノ政治ヲ引キ、是皆兼愛ノ政ヲ施行セシ實例ニシテ、實行ノ意志サヘ確立セバ、何等不可能ノ事業ニアラズト爲シテ居ル。墨子ハ又更ニ卑近ナル一二例ヲアゲテ反對論者ニ一撃ヲ試ミテ居ル。曰ハク「今人戰役又ハ出使ノ爲メニ遠地ニ趣カントシ、其生還未ダ豫メ議ルベカラザル際ニ當リ、其父母ヲ奉承シ妻子ヲ提挈シテ之ヲ寄託セントスルニ、兼愛ノ士ヲ擇ブカソレトモ別愛ノ士ヲ擇ブカ。思フニ天下ノ愚夫愚婦ト雖、又平素兼愛ヲ非議スル者ト雖、必ズヤ兼愛ノ士ヲ擇ンデ之ヲ寄託スルデアラウ。又今歲癘疫アリ、萬民勤苦凍餒溝壑ノ中ニ轉死スル者既ニ多數ニ上ル。此場合ニ於イテ兼愛ノ君ト別愛ノ君ト二君ノ間ニ擇ブ所アラシメタナラバ果シテ如何。天下ノ愚夫愚婦ト雖、又平素兼愛ヲ非

議スル者ト難、必ズ兼愛ノ君ヲ擇ンデ之ニ適歸スルデアラウ」(註二)。是レニ由ツテ之ヲ觀レバ世ノ兼愛ヲ非トスル者ハ未ダ眞ニ兼愛ノ利益ヲ認メ得ザル者ト謂ハネバナラヌト爲シテ居ル。

以上掲グル所ハ兼愛ガ人間社會ニ利益アル者タルコトヲ述ベタニ過ギナイノデアルガ、墨子ガ兼愛ヲ主張スル根據ハ、單ニソガ人生ニ利益アルガ爲メトイフガ如キ理由ノミニ本ヅクモノニ非ズシテ、別ニ更ニ深キ根柢ヲ其奥ニ有スルノデアル。ソレハ何デアルカト言フニ、即チ墨子ノ宗教思想デアル。墨子ハ宇宙ノ統率者トシテ所謂天トイフモノヲ信ジテ居ル。此天ハ常ニ人類ノ行動ヲ監視シ、之ニ對シテ賞罰禍福ヲ降ス所ノ人格的ノ神デアル。此天ノ外ニ彼ハ猶多數ノ鬼トイフ者ヲモ信ジテ居ルノデアルガ、ソレハコニ多ク關係ヲ有タヌ事デアルカラ姑ク説明ヲ省略スルコトトスル。扱墨子ハ此天ノ特性ヲイカニ考ヘタカトイフニ、「元來天ノ行動ハ廣クシテ私ナキモノデアリ、其ノ惠施ハ厚クシテ息マズ、其ノ光明ハ久シクシテ衰ヘナイモノデアル」(註三)ト爲シテ居ル。而シテ此公平無私、萬物ヲ一樣ニ愛利スル天ハ、吾々人間ニ對シテ果シテ如何ナル事ヲ要求スルカトイフニ、矢張り天ノ如ク公平無私、萬人ヲ一樣ニ愛利セヨトイフコトヲ吾々ニ要求スルノデアル。曰ハク「天ハ果シテ何ヲカ欲シ何ヲカ惡ムヤ、天ハ必ズ人ノ相愛シ相利スルヲ欲シテ、而シテ人ノ相惡ミ相賊フヲ欲セズ、奚ヲ以テ天ガ人ノ相愛シ相利スルヲ欲シテ、人ノ相惡ミ相賊フヲ欲セザルヲ知ルカトイフニ、是レ天ノ兼ネテ之ヲ愛シ、兼ネテ之ヲ利スルヲ以テ之ヲ知ルノデアル。奚ヲ以テ天ノ兼ネテ之ヲ愛シ、兼ネテ之ヲ利スルコトヲ知ルカトイフニ、是レ天ガ兼ネテ一樣ニ人類ヲ保ンジ、又兼ネテ平等ニ人類ヲ飼フヲ以テ之ヲ知ルノデアル」(註四)ト。

是レ即チ兼愛ノ天意ニ本ヅクモノナルコトヲ明言セルモノニシテ、此思想ハ天志篇ノ中ニ特ニ反覆詳說セル所デアル。

(註一) 天下之士君子、特不諱其利辯其故也、今若夫攻城野戰、殺身爲名、此天下百姓之所皆難也、苟君說之、則士衆能爲之、況於兼相愛交相利、則與此異、夫愛人者、人必從而愛之、利人者、人必從而利之、惡人者、人必從而惡之、害人者、人必從而害之、此何難之有、特上弗以爲政、士不以爲行故也、(兼愛篇中)

(註二) 然即敢問、今有平原廣野於此、被甲襲胄、將往戰、死生之權未可識也、又有君大夫之遠使於巴越齊荆、往來及否未可識也、然即敢問不識擇之家室、將惡從也、奉承親戚、提挈妻子、而寄託之、不識於兼之有是乎、於別之有是乎、我以爲當其於此也、天下無愚夫愚婦、雖非兼之人、必寄託之於兼之有是也、然即敢問、今歲有癘疫、萬民多有困苦凍餒轉死溝壑中者、既已衆矣、不識將擇之二君者、將何從也、我以爲當其於此也、天下無愚夫愚婦、雖非兼者、必從兼君之有是也、(兼愛篇下)

(註三) 天之行嚴而無私、其施厚而不息、其明久而不衰、(法儀篇)

(註四) 天何欲何惡者也、天必欲人之相愛相利、而不欲人之相惡相賊也、奚以知天之欲人之相愛相利、而不欲人之相惡相賊也、以其兼而愛之兼而利之也、奚以知天之兼而愛之兼而利之也、以其兼而有之兼而食之也、(法儀篇)

三 兼愛ノ根本觀念ハ大體以上述ベタル所ノ如シ。今更ニ一步ヲ進メテ兼愛主義ニヨル社會

ノ組織ヲ墨子ハ如何ニ考ヘテ居タカヲ述ベテ見ヤウ。墨子ハ周詩ヲ引キテ次ノ如ク言ツテ居ル。

「周詩ニ曰ハク、王道蕩々タリ、偏セズ黨セズ、王道平々タリ、黨セズ偏セズ、其直キコト矢ノ如ク、其易キコト底ノ若シ、君子ノ履ム所、小人ノ視ル所ト。此言ハ道ヲ語ルノ謂デハナイカ。

古ハ文武政ヲ爲スニ分ヲ均シクシ、賢ヲ賞シ暴ヲ罰ス、親戚兄弟ノ阿ル所有ルコトナシ。即チ此レ文武ノ兼愛デアル。子墨子ノ所謂兼愛トイフモノモ文武ニ於イテ法ヲ取ツタモノデアル」(註二)ト。既ニ自利心ヲ排斥シ、自由競爭ヲ非認セル墨子ノ理想社會ニ於イテハ、此「分ヲ均シクシ賢ヲ賞スル」コトガ、社會組織ノ根本基礎トナルノデアル。

墨子ハ先ツ賢者ヲ尙ビ賞スルノ方法ヲ論ジテ言フニ、「古聖王ノ政ヲ爲スニハ、德アル者ヲ位ニ列ネ、賢人ヲ尙ビ用ヒ、タトヒ農民職工ノ中タリトモ、賢能ノ者ハ之ヲ舉ゲテ、高ク之ニ爵ヲ與ヘ重ク之ニ祿ヲ與ヘ、之ニ任ズルニ政事ヲ以シ、斷ズルニ令ヲ與フ、故ニ此時ニ當リテハ德ヲ以テ列ニ就キ、官ヲ以テ事ニ服シ、勞ヲ以テ賞ヲ定メ、功ヲ量リテ祿ヲ分ツ、故ニ官ニイツ迄モ貴キ者トナハナク、民ニイツ迄モ賤シキモノトナハ無イ。能アルモノハ之ヲ舉ゲ、能ナケレバ之ヲ下ス」(註二)ト。墨子ハ即チ此古聖王ノ政ヲ理想トセルモノデアル。而シテ其所謂賢者ハ、獨隣里鄉黨ノ政治ニ關與セシムルノミナラズ、諸侯天子ト雖スベテ皆人民中ノ賢者ヲ以テ事ニ當ラシメネバナラヌトシテ居ル。彼ニヨレバ即チ天子ハ人民中ノ最賢者ニシテ、人民ヨリ選出サレテ天子ト爲ルモノデアル。然ルニ天下ノ廣キ人民ノ衆キ、一人ノ天子ノ能ク治ムベキニ非ズ。是ニ於イテ天子ハ更ニ人民中ヨリ賢者ヲ選擇シテ之ヲ諸侯ニ任ジ、其政治ヲ助ケシム。諸侯亦其國ニ於ケル政治ヲ一人ニテ爲シ得ルモノニアラズ。是ニ於イテ更ニ人民中ヨリ賢者ヲ選擇シテ鄉長里長ニ任ジ、以テ其治ヲ助ケシム。而シテ里長鄉長ハ一里一鄉ノ人民ノ模範トナリテ、上諸侯ニ尙同スベク、諸侯ハ其國ノ人民ヲ率キテ、上天子ニ尙同スベク、天子ハ天下ノ人民ヲ率キテ、更ニ上天子ニ尙同スベキモノトナツテ居ル。斯クナレバ上天子ヨリ下人民ニ至ルマデ、道德ノ標準ハ一ニ天ノ意志ヲ遵奉スルコトニ歸着スベク、之ヲ尙同一義ト稱シ、天下一統ノ政治ハ是ニ至リテ始メテ見ルコトヲ得ルトスルノデアル(註三)。是レ實ニ宗教道德ヲ中心トスル共和政治トブモ名ヅクベキモノデアラウカ。然リ而シテ墨子ノ所謂賢者トハ即チ能ク天ノ意志ヲ遵奉スル者ノ謂デアル。

然ルニ前ニ述ベシ如ク天ハ公平無私ヨク萬民ヲ兼ネ愛ス。サレバ社會ニ在リテヨク人ヲ兼ネ愛シ分ヲ均シクスルコトヲ得ルモノ、即チ是レ賢者トイフコトニナルノデアル。サレバ曰ハク「賢者タルノ道ハ將ニ如何スベキカ。曰ハク、力有ルモノハ疾ク努メテ人ヲ助ケ富メル者ハ勉メ惠ミテ人ニ財ヲ分チ、道徳アリテ優レル者ハ勸メテ人ヲ教フルヤウニスルノデアル。此ノ若クナレバ飢ユル者ハ食ヲ得、寒ユル者ハ衣ヲ得、亂ルル者ハ治ヲ得ルコトナル。若シ飢ユル者食ヲ得、寒ユル者衣ヲ得、亂ルル者治ヲ得ルニ至ラバ、此ニ乃チ人民ハ其生活ヲ得ルノデアル」(註四ト。是レガ即チ賢者ノ道デアル。而シテ斯カル賢者ヲ賞シ尙ビテ一般人民ノ歸向スベキ標的ヲ示シ、且其選拔セル賢者ヲシテ一般人民ヲ誘導感化セシムルコトスレバ、分ヲ均シクスルノ政治ハ自ラソコニ出來上ルワケデアル。是ニ於イテ賢ヲ尙ビ分ヲ均シクスルノ政ハ、畢竟ニ一ニシテ一ナルモノナルコトヲ知ルノデアル。要スルニ墨子ノ平等政策ハ、必シモ生産分配ノ組織ヲ變更シテ、強制的ニ之ヲ實行セントスルニ非ズシテ、賢ヲ尙ビ賢ヲ賞スルノ方法ニヨリテ、人々ノ道徳心ヲ鼓舞シ、徐ニ感化誘導シテ理想ノ域ニ到達セント欲スルモノニ外ナラナイノデアル。(未完)

(註一) 周詩曰、王道荡荡、不偏不黨、王道平平、不黨不偏、其直如矢、其易若砥、君子之所履、小人之所視、若言非諸道之謂也、古者文武爲正均分、賞賢罰暴、勿有親戚兄弟之所阿、即此文武兼也、雖子墨子之所謂兼者、於文武取法焉、(兼愛下)

(註二) 古者聖王之爲政、列德而尚賢、雖在農與工肆之人、有能則舉之、高與之爵、重與之祿、任之以事、斷與之令、……故當是時以德就列、以官服事、以勞殿賞、量功而分祿、故官無常貴、而民無終賤、有能則舉之、無能則下之(尙賢篇上)

(註三) 夫明厚天下之所以亂者、生於無正長、是故選擇天下之賢、可者立以爲天子云々(尙同篇上)

(註四) 爲賢之道將奈何、曰有力者疾以助人、有財者勉以分人、有道者勸以教人、若此則飢者得食、寒者得衣、亂者得治、若飢則食、寒則得衣、亂則得治、此安生也、(尙賢篇下)